



1

牛腸茂雄 写真展

“生きていく”ということの証

『SELF AND OTHERS』1977年発行 ©Hiroichi Gocho

本年に没後40年を迎え、『牛腸茂雄全集』（赤々舎）が刊行されるなど注目を集める写真家、牛腸茂雄（ごちょうしげお、1946-83）の回顧展を開催します。

新潟県に生まれた牛腸は、3歳で胸椎カリエスを患い、長期間にわたって下半身をギプスで固定される生活を余儀なくされたことから成長が止まり、生涯、ハンディキャップとともに生きていくこととなりました。10代からデザインの分野で非凡な才能を見せた牛腸にとって大きな転機となったのが、高校卒業後にデザイナーを志して進学した桑沢デザイン研究所で大辻清司と出会ったことでした。大辻は戦後写真史に重要な足跡を残した写真家であるとともに、新しい世代の礎となる才能を数多く見出した優れた教育者でもありました。「もしこれを育てないで放って置くならば、教師の犯罪である、とさえ思った」と、牛腸の才能を見出した大辻の説得により、牛腸は写真の道を歩むこととなったのです。

レンズを通して見つめる新たな世界を獲得した牛腸は、憑かれるように創造の世界に没頭しました。そして、限られた命であることを自覚し、「生きていく」ということの証として写真集の制作に力を注ぎました。何気ない日常で出会った子どもたち、家族、友人と、静逸で淡々とした作品の奥からこちらを見つめる被写体のまなざしは、写真を通して「自分と世界との関わり」を探索しつづけた牛腸のポートレートでもあります。そこには、日々のなかで「見ること」と「見られること」、「自己」と「他者」との関係性を意識してきた牛腸の深い洞察と、常にはじめて世界を見たような初々しさが共存しています。

本展では、生前に制作された写真集『日々』1971年、『SELF AND OTHERS』1977年、『扉をあけると』1980年、『見慣れた街の中で』1981年に収録された作品と、未完に終わった『幼年の「時間（とき）」』、関連資料など約200点を展示し、牛腸のまなざしに迫ります。

展覧会名：牛腸茂雄 写真展 “生きていく”ということの証

会期： 2023年11月3日（金祝）～12月24日（日）

休館日： 月曜日（祝日の場合は開館、翌平日休館） 会場： 市立伊丹ミュージアム 展示室2・3・5

開館時間： 10時～18時（入館は17時半まで） 入館料：一般1,000円、大高生700円、中小生400円

主催：市立伊丹ミュージアム〔伊丹ミュージアム運営共同事業体 / 伊丹市〕

企画協力：株式会社コンタクト

協力：三浦和人、赤々舎

対談「牛腸茂雄のまなざし」三浦和人（写真家）×佐藤正子（本展企画者）

桑沢デザイン研究所入学以来の友人として牛腸茂雄の没後、その作品管理に携わり、本展のモノクロ作品全点のプリントも手がけた写真家の三浦和人さんと、本展企画者・佐藤正子さんとの対談。

日時：12月2日（土）14時～（約1時間半）

場所：1階講座室

定員：100名 / 聴講無料（要当日観覧券）/11月7日（火）10時より電話（072-772-5959）にて受付開始



市立伊丹ミュージアム
Itami City Museum
of Art, History and Culture

広報用画像

- 広報用画像の使用は本展をご紹介いただく場合のみとさせていただきます。本展終了後の使用、または二次利用はお断りします。
- 広報用画像をご紹介いただく場合、展覧会名、会期、会場、作品名を必ずご記載ください。
- トリミング、変形、部分使用、文字のせは一切禁止となっております。
- 掲載にあたり画像データをご希望の際は別紙の申込書にてご連絡ください。



『SELF AND OTHERS』1977年発行 ©Hiroichi Gocho

2



『日々』1971年発行 ©Hiroichi Gocho

3



『日々』1971年発行 ©Hiroichi Gocho

4



『幼年の時間（とき）』1983年発行 ©Hiroichi Gocho

5



『幼年の時間（とき）』1983年発行 ©Hiroichi Gocho

6

問い合わせ先：

本展担当：岡本梓（学芸員 / 主査） okamoto@itami-im.jp TEL 072-772-5959（代表） / 7447（直通）

広報担当：鈴木寛和（学芸員） gakugei@itami-im.jp TEL 072-772-5959（代表） / 7447（直通）

〒664-0895 兵庫県伊丹市宮ノ前 2-5-20 市立伊丹ミュージアム TEL 072-772-5959（代表）

広報用画像およびチケット掲載の申込書

市立伊丹ミュージアムにて開催する「牛腸茂雄 写真展 “生きている”ということの証」にて、貴媒体での掲載にあたり画像をご入用の際は下記にご記入の上、FAX かメール : gakupei@itami-im.jp にてお申し込みください。

画像 (別紙プレスリリース参照)

※広報用画像の使用は本展をご紹介いただく場合のみとさせていただきます。本展終了後の使用、二次利用はお断りします。

※ご使用の際は下記キャプションとクレジットを明記してください。

※トリミング、変形、部分使用、文字のせは一切禁止となっております。

※掲載記事の提出をお願いします。

<input type="checkbox"/>	1	『SELF AND OTHERS』1977年発行 ©Hiroichi Gocho
<input type="checkbox"/>	2	『SELF AND OTHERS』1977年発行 ©Hiroichi Gocho
<input type="checkbox"/>	3	『日々』1971年発行 ©Hiroichi Gocho
<input type="checkbox"/>	4	『日々』1971年発行 ©Hiroichi Gocho
<input type="checkbox"/>	5	『幼年の時間 (とき)』1983年発行 ©Hiroichi Gocho
<input type="checkbox"/>	6	『幼年の時間 (とき)』1983年発行 ©Hiroichi Gocho

告知用のチケットプレゼント 名分 (最大5組10名)

※メディアでのチケット告知用に限ります。必ず掲載記事を市立伊丹ミュージアムに提出することを提供条件とします。

※転売や違法売買は一切禁止いたします。不正が判明した場合、該当チケットは無効となります。

媒体名 :	掲載日 :
御社名 :	ご担当 :
Mail :	
TEL :	FAX :
住所 :	